

1. これまでの議論の振り返り

(1) アーツカウンシルの一般的な定義

- ・ 専門家による助言、審査、評価、調査研究等の機能を有するもの
… (独) 日本芸術文化振興会ホームページより
- ・ 文化芸術に対する助成を基軸に、行政組織と一定の距離を保ちながら、文化政策の執行を担う専門組織であり、独立性と専門性を中核にした政策執行機関
… 日本文化政策学会シンポジウムでの発表より

(2) 当審議会委員の意見

- 近年、「文化芸術」の捉え方が広がり、歴史的な評価を受けている分野に限らず、新しく多様な文化芸術も含め、県民誰もが関心をもち、楽しむことができる環境づくりが必要となっている。
- 限られた予算の中で、県内各地の文化芸術活動の担い手を取りこぼすことなく幅広く目配りし、公平に後押しするためには、他県で導入が進む「アーツカウンシル」の設置を議論しても良いのではないか。

2. 他県のアーツカウンシルで行われている主な事業

(1) 情報発信・共有

- ホームページ、SNS等による情報発信
- クリエーター等をデータベース化し、公開

(2) 相談支援・助成金交付

- 文化芸術活動に関する様々な問い合わせにワンストップで対応
- 文化芸術活動に対する助成事業（アーツカウンシルが審査・決定）
- 助成金の交付だけでなく、伴走型支援も実施

3. 先行事例の調査

アーツカウンシルの運営に関する調査

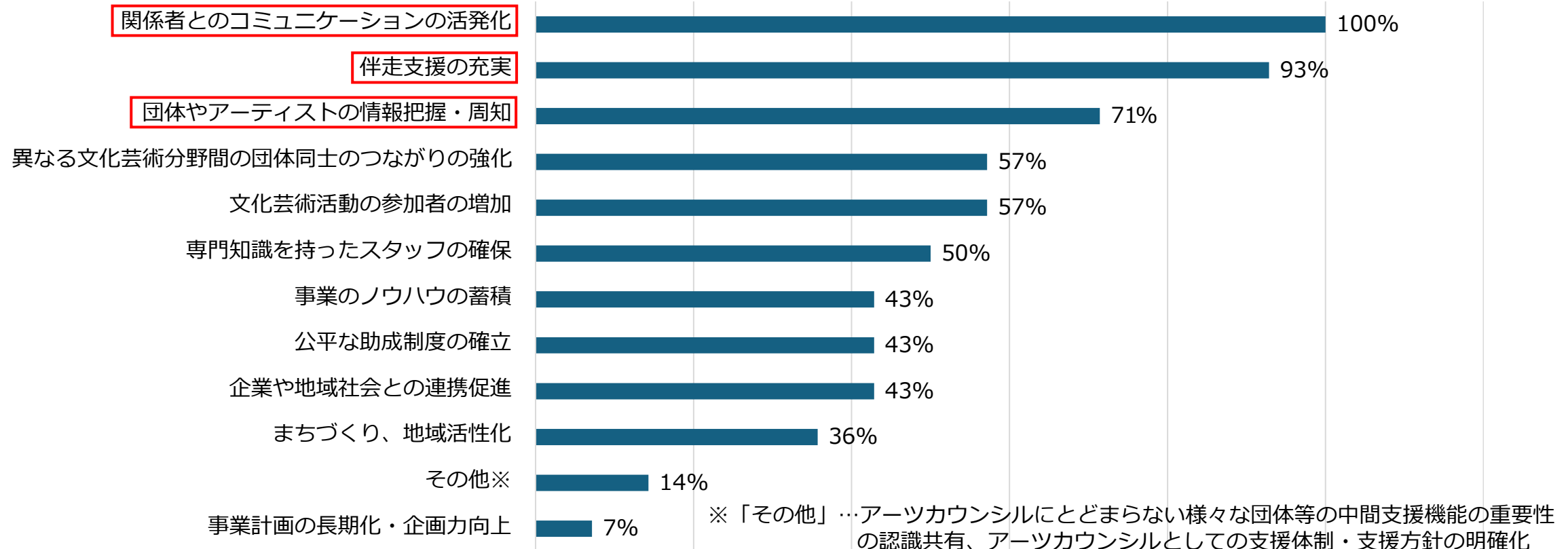
○調査期間：令和8年5月下旬～6月上旬

○調査対象：21団体（行政の事業に留まるものを除く）

○回答団体：18団体

アーツカウンシルを設立したことにより解消できた課題

解消できた課題として、「関係者とのコミュニケーションの活発化」が最も高く、以下、「伴走支援の充実」、「団体やアーティストの情報把握・周知」と続いた。



4. 事業分類毎の整理

(1) 情報発信・共有

当審議会委員の意見（第2回文化審議会及びヒアリング結果まとめ）

- 富山県内では、先駆けて、色々な文化芸術活動をやっているが、県民に認知されていない。メディアも全部は網羅できない。**県下全域の情報をシェアできる仕組みが必要。**
どこで、どんなことをしているのか分かるような文化サイトを設置してほしい。（長澤）
- 富山版アーツカウンシルは**プラットフォーム（利用者と提供者をつなぐ役割）のイメージがよい。**
県内で取り組まれている文化芸術活動を**知る場。**企業がアートを**すくい上げる場。**（米田）
- 個人で活動している**アーティストをデータベース化**するなど可視化すれば、活動機会の創出や、企業など協賛者からの活動支援につながるのではないかと。**クラフト**分野まで広げたら裾野が広がる。
（三宮）

想定される機能

- webサイトの構築
 - ・ イベントカレンダー、担い手を紹介するデータベース、各種募集告知など
 - ・ SNSなどの各種ツール、メディア等を通じた情報発信

検討すべき課題（先行事例調査結果より）

- ①文化芸術団体や企業等に富山版アーツカウンシルの意義を理解してもらうための普及、啓発
- ②県内全域の文化芸術活動の担い手や企業、行政など関係者とネットワークを築き、連携のコーディネートを行い、新たな事業を創造・実行する人材の確保

先行事例

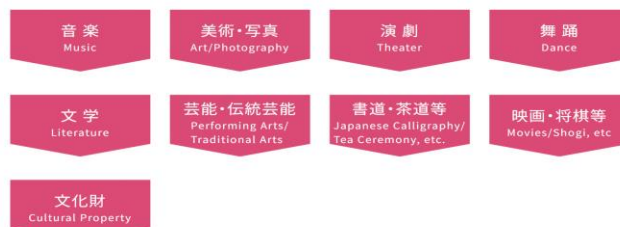
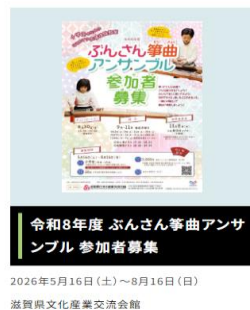
○webサイト（滋賀県文化芸術ポータルサイト「SHiGA Art」）【滋賀県文化芸術振興課】



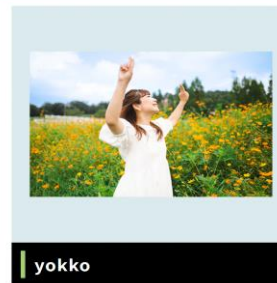
2026

1月 January	2月 February	3月 March	4月 April
5月 May	6月 June	7月 July	8月 August
9月 September	10月 October	11月 November	12月 December
2027年			

6月 June



音楽 Music



美術・写真 Art/Photography



＜掲載情報＞

- ①各月のイベント
- ②アーティスト情報
- ③文化団体情報
- ④各地域のホール・ギャラリー
- ⑤支援情報(相談窓口)
- ⑥市町の文化担当、文化協会
- ⑦公募展

(2) 相談支援・助成金交付

当審議会委員の意見（第2回文化審議会及びヒアリング結果まとめ）

- 助成金も必要だが、自ら生み出すことができればいい。（佐部利）
- 助成金を提供したりお膳立てしてあげることが目的ではなく、自分たちで工面する方法を一緒に考えて考えるとか、企業と結び付けるとか、意識をどういう風に向けていってあげるか、というところも非常に重要。（武内）
- 3万円くらいのコンパクトな助成金があると助かる。（米田）

想定される機能

- ①相談窓口
- ②助成事業（事業内容を公平に審査し、助成先を決定するアーツカウンシル機能の付加）

検討すべき課題（先行事例調査結果より）

- ①助成金の財源の確保
- ②継続的に助成してきた既存事業との調整
- ③助成事業の採択を決定する審査体制（アーツカウンシル機能）の整備（公平性、透明性の確保）
- ④助成メニューの検討

先行事例

①助成金の財源の確保

- ・自治体による委託、補助
- ・企業からの寄付、基金の設置など
- ・申請者の自己負担

②継続的に助成してきた既存事業との調整

- ・既存事業の受け皿としてアーツカウンシルの助成事業を活用

③助成事業の採択を決定する審査体制（アーツカウンシル機能）の整備（公平性、透明性の確保）

- ・行政から独立した審議機関の設置
- ・定期的な審査員の交代や県外審査員の加入

先行事例

④助成メニューの代表例

分類	内容	先行事例
①創造活動支援	団体や個人の創造的な文化芸術活動に対する支援	・市の文化芸術を振興する、音楽、アートをはじめとした文化芸術活動への支援
②地域課題解決	地域振興に対する支援	・まちづくりや観光、国際交流、福祉、教育、産業などの様々な分野と文化芸術が協働する取り組みへの支援
③社会包摂・共生社会（インクルーシブ）	福祉、教育、多文化共生など社会課題と文化芸術活動を結ぶ活動に対する支援	・障害者福祉、高齢者福祉、多文化共生等の分野と協働し、社会包摂を推進する取り組みへの支援
④その他 （次世代育成、スタートアップ・ステップアップ支援）	若手アーティスト等の育成に向けた少額支援	・将来の文化を担う次世代を育成・強化する事業への支援 ・地域で新規または内容を拡充して行う小規模な文化芸術活動等への支援

5-1. 運営の方法

当審議会委員の意見（第2回文化審議会及びヒアリング結果まとめ）

- どういう人選をして、どういう運営をするか。せっかく富山に良いものが沢山あるのだから、それをどう発見するかということに目を向けることが重要。（伊東）
- 実働部隊として動けて人柄も良い、交渉役となる人材が必要。（島添）

検討すべき課題（先行事例調査結果より）

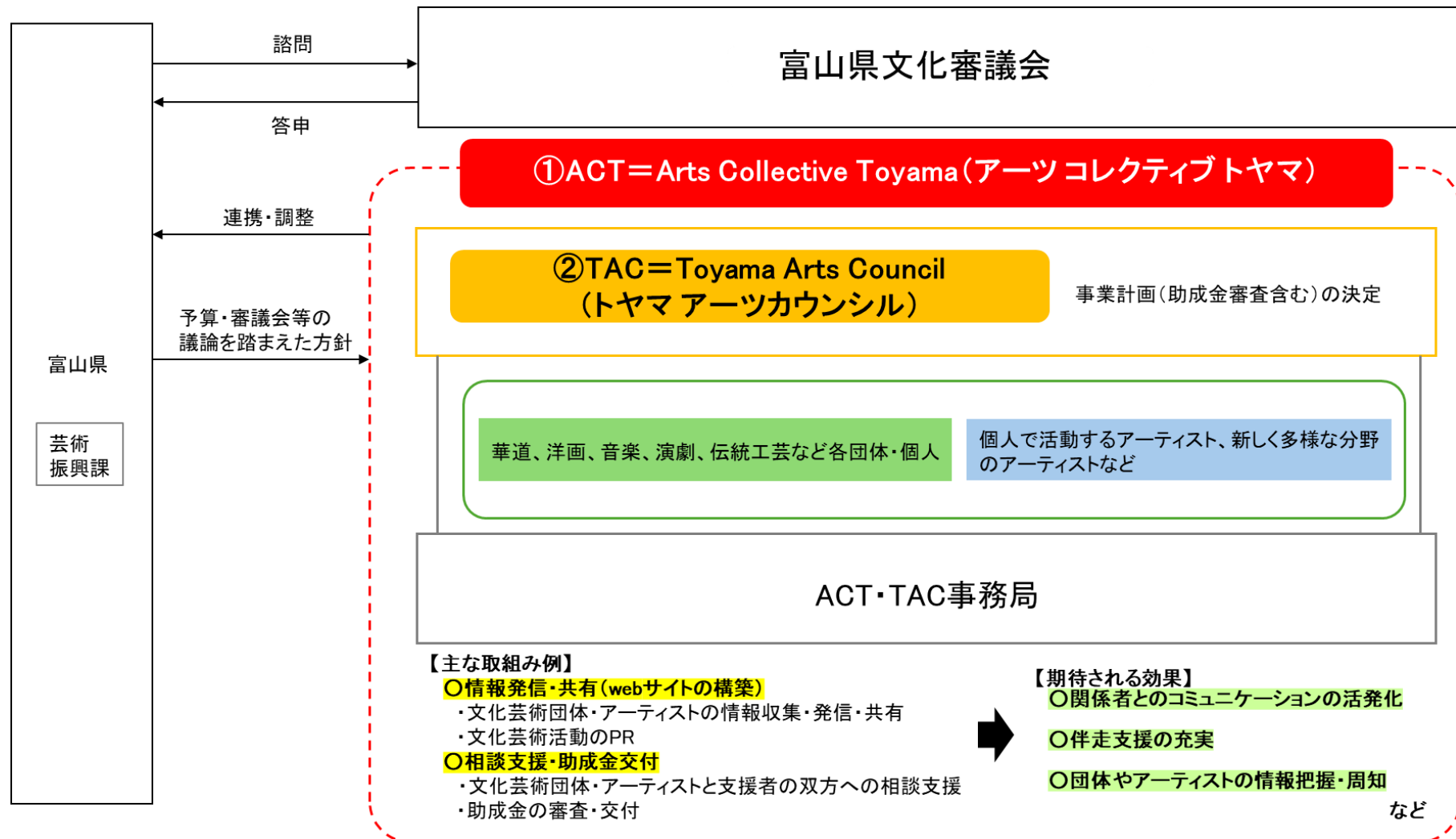
- 富山県文化審議会の意見を踏まえた「富山版アーツカウンシル」のイメージを実現する組織体制
- 運営主体

5-2. 運営の方法（富山版アーツカウンシル（仮称）のイメージ図（議論のたたき台））

「富山県総合計画—幸せ人口1000万～ウェルビーイング先進地域、富山～を目指して」

○新たな県民文化計画の基本的な理念

- ・伝統から新たな表現まで多様な文化芸術を誰もが楽しめる環境を創出する。
- ・各地の幅広い文化芸術の担い手を含め、時代の潮流に合わせた施策を展開することで、文化を通じた県民のウェルビーイング（注④）向上を実現する。



①ACT=Arts Collective（注⑤） Toyama

- ★文化芸術団体・アーティストの集合体
- ・個人的な活動なども加盟可能にしてメンバーを広げる。
- ・新たにACTのwebサイトを作り、個人も団体も加盟できる形式にして、可能な限り、振興対象を広く網羅する。

②TAC=Toyama Arts Council

- ★ACTの文化芸術振興活動を支援するため、行政から独立した審議機関を設置
- ・一定の自律性を持った審議機関が、ACTメンバーに対する支援・助成等の審査を行い、公平性を担保する。

5-3. 目指す姿

○県民等のアンケートや審議会での議論を踏まえた課題

主体	課題
①県民・こども	- 文化芸術を鑑賞したり、活動に取り組んだりする時間がない - こどもたちが参加・体験できる文化芸術事業の実施が必要
②文化芸術団体	- 情報発信がうまくできない - 活動資金が足りない - 新規加入者がいない
③アーティスト	- アーティストの活動が知られていない - 若者の発表・活動の場がない
④自治体	- 文化芸術分野の多様化など新たな文化的潮流のカバーが不十分 - 専門知識・技術を備えた職員の確保 - 文化芸術活動への参加者の高齢化・若年層の減少
⑤企業	- 文化芸術活動の内容の把握が難しい - 支援を検討する際の知識・情報の不足

★県の文化芸術をみんなで盛り上げる新しい仕組み (ACT)
★独立した組織の設置による公平性・中立性の確保 (TAC)



★情報発信・共有 (webサイトの構築)
★相談支援・助成金交付

○目指す姿

主体	目標
①県民・こども	SNSなどの各種ツール、メディア等を通じた文化芸術の鑑賞機会の増加など文化芸術に親しむ機会の拡充
②文化芸術団体 ③アーティスト	活動のPRや活動の場、連携機会の拡大などによる人材と活動資金の確保
④自治体	- 新しく多様な文化芸術を含めた幅広い分野への目配り・後押し - 専門家による伴走支援の充実 - 活動や行事の担い手の情報把握
⑤企業・経済団体	- 県下全域で行われている文化芸術活動情報の共有 - 支援を検討する際の知識・情報の収集
⑥メディア・情報発信者	- 情報把握の効率化 - 文化芸術活動の発信機会の充実

先行事例

○アーツカウンシルの運営主体のパターン

分類	メリット	デメリット
①行政が運営	・文化政策との一体的な推進 ・中立性・公平性の確保	・専門人材の継続的な配置が困難 ・事業が固定化、マンネリ化する傾向
②独立組織の新設	・新たな視点で施策を推進できる ・機動性が高い	・設立コストや運営費の増加 ・軌道に乗るまで年数がかかる
③自治体出資の財団等	・行政と比べて現場との距離が近い ・既存の人的・物的資源の活用が可能	・管理施設の利用者への支援や当該施設を利用した事業が中心になるおそれ
④全県的な芸術文化団体	・専門性がある ・文化芸術関係者とのネットワークがある	・会員への支援を重視する ・文化芸術以外の分野との連携が弱い